**事例３．初期認知症の一人暮らし高齢者への対応**　（地域包括支援センター相談員）

**基本的属性**：７3歳　女性　　民間住宅の２階に一人暮らし

**疾病**：変形性膝関節症（近隣病院の整形外科へ通院中）

**家族関係**：一人娘が近隣市に在住　在職中。　孫は小学生

**経過：**

**初回面接：**娘より電話相談　母親の認知症を疑っている。

家が散らかっていて、ほこりでアレルギーになってしまうので、母の家以外で相談したいとのこと。2人で事務所に来てもらい面談。

今年、娘と墓参の待ち合わせをしたところ、本人は忘れてしまい来なかった。毎年のことだったのに、認知症疑っている。

本人は、アルバイトをしているが、実際にできたかどうか、わからなくなり、何度も確認するようになり、時間がかかってしまう。また、膝関節の変形と痛みもありつらい。

　年金は約12万円/2か月、バイトで月１～２万円になるが、公共料金のうち、ガス代、固定電話代が払えなくなり止まっている。貯金はなし。お風呂に入れず、時々娘宅に呼んで入ってもらう。

　携帯電話あり。クーラーなし。食べるものは買ってきている。

　本人は物忘れの自覚あり、足が痛いがお金がないので、バイトは辞めないと考えている。入院費もないので膝の手術を勧められているができないという。

　本人の希望は「孫が結婚する姿は見たい。それまで元気でいたい」

⇒電話相談ができることが娘に理解されていた。

⇒娘からの電話にすぐに対応した。

⇒基礎的ニーズの把握ができている。

**その後の支援**：

①本人のお宅を訪問。書類・手紙・レジ袋・メモ用紙などが玄関からお部屋の中まで床に層になっている。布団の半分がこたつにはいっており、こたつでちらし折の作業をして、疲れたら寝るという。手伝ってくれるなら、片付けてもいいという。社協へ協力要請する。

⇒訪問できた。

⇒生活環境を把握できた。

⇒環境の問題があるため、片付けていいとの了解を受けた。

⇒社協にすぐに繋ぐことができた。

②整形外科で通院の病院の、精神科外来へ。本人に付き添う。HDS　27/30　　海馬に大きくないが空洞あり。認知症の初期。認知症改善薬　最小量の処方を勧められ本人了解する。主治医意見書を医師にお願いし、介護保険を申請する。

⇒様々な社会資源を活用した。

⇒病院に同伴し、認知症症状の把握ができ、支援計画の作成に繋がった。

③社協の地区担当と自宅に同行。片付け方法について検討。ガス代の未払いへの対応を検討してもらうも後日、不可となる。片づけはボランティアを募っての対応とする。

⇒社協のネットワークと繋がる。

④本人より「先日もらった薬が足りない」と言われる。残数の管理ができないと思われる。自己流での複数のサプリメントの購入が続いており出費と思われる。

⑤生活保護申請へ。相談の翌月本人と相談し、娘さんも了解をもらい、生活歴を聞きとりし、窓口申請へ同行。

⇒本人の生活保護申請の援助を行う。

⇒娘さんの了解を得ることができた。

⑥介護認定調査に同席。社協職員、包括職員、ボランティアにて部屋の片づけする。本人も参加。

⑦要介護相当を想定し、ケアマネジャーもご紹介し、ヘルパーを入れることに。

⇒認定調査に同席し、代弁的役割を果たす。

⑧ヘルパーが通常の掃除ができるように、前回メンバーに数人加えて片づけ実施。中古家電を娘さんに調達してもらう。

⇒様々な社会資源の活用。

（社会資源とは、「人」問題解決に取り組む当事者、医師、保健師、社会福祉士・ケアワーカー・ケアマネジメント等の専門職、住民、ボランティアといった保健医療福祉等に関わる広い人材

「もの」保健・医療・福祉・教育・公民館等の施設、サービス・活動、物品はもちろん、住民関係、地域関係、またボランティア協議会、医療保健福祉等の専門職ネットワーク等のネットワーク

「金」 補助金・委託金、寄付金、収益、研究補助金

「とき」就業時間、ボランティアが活動する時間。課題を共有化し取り組むチャンス

「知らせ」上記の資源情報、サービス利用者情報、相談窓口における情報等のニーズ情報、計画策定に必要な統計等の管理情報）

**残された課題**

・入浴していない　→　デイサービス利用で入浴する。

・膝の痛み　→生活保護が決定したら手術するか検討。階段を上がっての自宅なので、リハビリも必要。アルバイトは今後無理と考え、本人も了解し、辞める。

・部屋の片づけ　→　片付けたところキープするようヘルパー利用

なお、ヘルパー、デイサービスの利用で一人暮らし継続中。コロナ蔓延で、膝の手術・入院は保留としている。

⇒課題を明確にしている。

**今後の支援：**

・要介護１となりケアマネジャーの対応となる

・ここまでの支援で４か月が経過した。本人に、孫の面倒をみたい、孫が結婚するまでは元気でいたいとの希望があり、それが励ましになっている。

・しかし、この間、本人から「私はどうしたらいいの？」「アルバイトはやめていいの？」「いつ、市役所に行くの？」また、片付けをしたために、「〇〇が見当たらない」等、何度も電話がかかってきている。

・今までの経過をケマネジャーに伝え、対応を引き継ぎ、バックアップしていくことにする。